

# BOAT RACER'S HOTLINE

竹間隆晟

Ryusei TAKEMA

成績は2月13日現在

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5221	大阪	大阪	129	24	A2	5.56	4.84	90	8	1	1882万8000円	5310万2333円



## 将来を期待される住之江のフレッシュルーキー 石野貴之を師に仰ぎ、目指す目標はグランプリ

○選手になるためにボクシング  
——ボートレーサーを目指したきっかけは？

テレビ番組の「アメトーク」の「ボートレース芸人」を見たことですね。中学校3年生の時だったと思います。率直に「いっぱい稼げる賞金」が魅力でした。

——小学校、中学校は野球に打ち込んだ。

中学は準硬式で野球をやっていました。当時はやっぱりプロ野球選手を目指していましたが、野球が無理でもスポーツ選手になりたいという思いがあった。番組を見るまではボートレースのことを知りませんでした。そこからはボートレーサーへの憧れが強くなりましたね。尼崎で実際のレースを見て、その思いはさらに強くなりました。

——高校時代はボクシング。

それはボートレーサーになるためにやりました。野球を続けていたら体が大きくなってしまふ。ボクシングなら減量も意識することができると考えました。ボクシングをやっていたことにより、動体視力は鍛えることができたと思います。ボートレーサー養成所の試験にも動体視力の項目がありますからね。ただ、養成所には7回受けて、ようやく合格することができました。

○出世街道に乗る

——23年10月地元住之江で王道V。同期1番乗りで優勝を経験。

2回目の優出でしたが、地元の

住之江で優勝できたということは自信になりましたね。初日に連勝してリズムは良かったし、予選最終日も2号艇で2着以上なら……と考えるながら、勢いに乗って行きました。ただ、その後優出はしているけれど、優勝ができていないのが不満ですね。

——最近5点台中盤の勝率が3期続いている。

大事なところで勝てていないことが多い。準優勝戦の1号艇で乗っても、まくられたりとか、取りこぼしがちなレースが多かった。

——そして、前期は初のF2を経験……

絶対にA1級になろうという気持ちで走っていたんですが、7月末の児島ルーキーシリーズと地元住之江で2節連続フライイングを切ってしまった。はやる気持ちと焦り……。特に2本目はこれまでもF持ちで走ったことはあったから、大丈夫だろう……と思っただけで切ってしまった。

——F2の休みの間の反省。

改めてスタートを見直さないといけないと思いましたね。スタートの仕方も変えました。以前は標識板だけを見て行く走り方だったんですが、いろいろアドバイスをもらって今はスローに入った際は空中線を見て行く方式に変えています。これまではスタートのタイミングも早い方だったと思う。多少放つてもいい数字を求めていた。今は質を求めています。10の前半くらいを目標に全速でスリットを通過できるように考えています。

——休み明け初戦がお正月の住之江オール大阪。

その節はこれまで走ったオール大阪の中でもキャリアハイと言える成績でした。そこは自信になりました。オール大阪はどのレースを走ってもすごい人と同じになる。油断も除かない選手がそろっています。今期は1月からのスタートになりましたが、休みなく走る事ができれば90走することができ。A1級になることは可能なので、そこは目指して行きたいです。

——今調整面で求めているところ。

最近は大体、エンジンが出ていない……ということはありません。自分のプロペラの形もあります。出足は最低限付く感じで、レース足を重視しています。それでも、今年は伸びも意識してしっかり調整していきたい。レースごとにしっかりと組み立てられるようにしたいです。

——自身の買い時は？

オリジナル展示タイムの回り足タイムがいい時は自分でも納得の行き足になっていると思います。

——師匠は石野貴之。

本当に勝負強いし、パンチ力があって、集中力もすごい。聞いたことはどんなことでも答えてくれます。やさしい師匠ですね。いずれは同じレースで走りたい。

——将来の目標。

優勝回数を増やして、最終的にはグランプリで勝つことを目指したい。そこを目標に選手をやっていますからね。

# BOAT RACER'S HOTLINE

安河内鈴之介 Suzunosuke YASUKOUCHI

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5330	福岡	福岡	133	21	B1	3.77	3.54	12	0	0	1124万6000円	1434万3000円



## センス光るハンドルワークに将来の期待大 先輩レーサーとの出会いが導いたスター候補

○高校球児がレーサーに  
——ポートルレーサーを目指したきっかけ。

親のすすめですね。中学校の頃に1、2回、福岡のレース場に行ったことがあります。親がポートルレース好きというより、自分の体型に合っているし、「こんな職業がある」と勧められた感じ。小さい頃から野球をやっていて、高校まで続けたこともあって、当時はプロ野球選手に憧れていました。

——本格的にレーサーを志望したのは？

高校の野球が終わって、進路を考えた時ですね。大学に進んでも野球を続けようと思っていたんですけど、体も小さいし「通用するかな」と悩んだ時に、再度親からポートルレーサーを勧められました。ただ、養成所の動画とかを見た時に養成所が寮生活ということを知った。高校も寮生活をしていて「またキツイ思いをするのはイヤだ。目指したくないなあ」と思ったんです。そんな時、姉に相談したら「目指さないといけない。知り合いにもポートルレーサーがいる」と言われて、紹介されたのが末永和さんと篠原晟弥さんだったので。

養成所の試験を受ける前に和也さんと会って、選手の生活とかを聞いて「いいなあ」と思い、真剣に目指し始めました。そこからはレース場にも行って和也さんのレースを見たりしました。そこには人とのつながりと縁を感じます。

——養成所を受験。

高校を卒業する前の11月に1度受けたら落ちて、2回目でも合格しました。成績はいい方だったかな。養成所の生活は実際には全然苦になりませんでした。むしろ、楽しかったです。寮生活は高校時代の方がきつかったですね。

○スローのレースに挑戦

——プロレーサーデビュー。

デビュー期が良かったのかなあ……とは思いますが、2期目はあまり良くなかったイメージですね。同期の中でも1着回数が多い方だと思えます。レースに関しては思うように走れていないことの方が多いですね。

——今期からはスローからのレースにも挑戦。

フライング休み明けの12月の徳山から入るようになりました。全てのコースに入るようになったけど、スタートだったり、進入だったり、いろいろ考えることが多くて成績は下がっているように思います。スタートにもバラツキがあります。そこが課題です。ピット離れは普通にできていますけどね。

スローの調整のこともあるし、やるのが以前よりも増えてくる。試行錯誤が続いている……という感じですね。ダッシュからのレースに関してはつかめている感覚はあります。思い切りよく行けているとは思いますが。

——得意のレースパターンは？

まくり差しですね。展開をしつかり突いていくタイプかな……とは

思っています。スタートは得意じゃないので、現状はまくりに行けない。やっぱりスタートが課題です。多少遅くなってもいいので安定した仕掛けと、ムラのないタイミングを意識して行っています。

——レーサーになって、末永和也選手に受けたアドバイスは？

プロペラのことも走り方のこともいろいろ教えてくれます。レースに関しては1周1マークの走り方ですね。まだ内からのレースはできていないことが多いです。

——プロペラ調整に関して。

よく触るようにはしていませんが、まだ全然分かっていないですね。調整して劇的に良くなった……という経験もないし、手探り状態です。足の仕上がりに関しては現状、エンジンの引き次第という感じですね。

——今後の目標。

まずはA級に上がることでですね。そこは和也さんにも言われています。そしてトップブルーキーに選ばれるような選手になりたいです。先のことよりもまずは近いところの目標を立てて、達成したいです。そして、最終的には上のステージに行けるようにしたい。

——オフの趣味は？

レーシングカートをやっています。カートとポートルとの共通点はあまりないですね。気分転換でやっている感じです。それでも、ポートルレースの方が楽しいですよ。夢があるし、この世界に挑戦して良かったと思っています。